

貴方の日々に寄り添う 会員制百貨店フェイスジョア



「はい。ご主人様、奥方様。
何なりとお申し付けください」

「ときめく」

モノ、コト、ヒトを

日本国内、海外で百貨店に勤務した経験から、お客さまのライフスタイルや嗜好、価値観に寄り添い、それを具体的なモノ、コト、ヒトとしてかなえてきた小南晴美氏。

彼女の仕事は、お客さまの個人的な願いを実現するコンシェルジュであり、執事であり、プロデューサーである。お客さまに喜んでいただくことを、彼女自身の喜びとして、様々な仕事を積み重ねてきた。

「長い間、百貨店に勤めてきましたが、第二の人生として、よりお客さまに寄り添った商品（モノ、コト）の提案が、世に求められているのではないかとこの予感から会員制百貨店、株式会社フェイスジョアを設立しました」と小南氏は語る。

社名のフェイスジョアとは南米原産の植物で、花は白と赤のコントラストが美しく食用にもなり、甘い果実も柔らかい。見てよし、味わってよし、という華も実もある植物がフェイスジョア。その花言葉は「実りある人生」。

小南氏が目指しているのは、お客さまの求めるものをいち早く察しつつ、それをときめきのあるモノやコト、そしてヒトによって、華も実もあるかたちとして実現していくことなのである。



趣のあるビルにある
フェイスジョアの事務所

小南氏の事務所があるのは、日本橋中央通りに面し、三越本店も近い丸石ビルディング。このビルは国の登録文化財になっていて、さまざまな意匠がクラシックな雰囲気濃厚に醸し出している。

その一角に構えた事務所は、小南氏が愛するモノがさりげなく置かれている。

天井にはロフマイヤーのシャンデリア、壁にはユトリロやブラジリエの絵、磨き抜かれた飾り棚には、色々な時代のティーカップがコレクションされている。デスク、椅子、ソファ、絨毯から本棚に至る

まで、女主人の趣味嗜好を控えめながら余すところなく表現しているのである。

「会員のお客さまがこうであつたら、もっと素敵に幸せになれるはず、いろいろと思いつくこと、私の仕事のまず第一歩だと考えています」と語る小南氏には、ある種の大きな構想力に恵まれているのだろう。



そういう内に秘めた「思いめぐらす力」が、何か新しいもの、未知のものに触れると、そこからお客さまにとつての素晴らしいことを構想し、提案していく原動力へと育っていくのだ。

文化を一つの核として

小南氏の仕事は出会いから始まっていく。新しいモノ、新しいコト、新しいヒトと出会うことから始まっていく。

最近も、日本の伝統芸能のひとつである文楽や歌舞伎に親しむことによって、それらを楽しむ機会を増やそうとする活動から、またひとつ小南氏の間口が広がっていく。「毎日毎日が新しい学びの機会ですし、素晴らしい

しいものや、ときめきをお客さまにお伝えする引き出しが増えています」とのこと。

一般では予約を取っていないヘッド・スパのアーティストやリラクゼーション・スペシャリストによる唯一無二の体験も、フェイスジョアのみが予約可能。またリラクゼーションと連動して、ヘアメイク、スタイリスト、カメラマンによるメモリアルフォトの撮影もプロデュースしている。

フェイスジョア会員からの依頼を受けて、家具メーカーと伝統工芸をコラボしたオリジナル家具の製作、オリジナルメイドの特別な旅、他では体験できない社交マナーのプライベートレッス



スンもあり、さらに美術品についてのご相談も世界的なオークション会社との連動によって可能となっている。

そして小南晴美氏は、お客さまがどんなものに興味を持ち、何が好きで、世界のどこなところを知りたいと思っているのか、などなどを想像しながら、情報の会員制百貨店、モノ、コト、ヒトの会員制百貨店フェイスジョアの敏腕コンシェルジュとしての活動を続けているのである。